

---

# 運命数字

緑茶

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

運命数字

### 【Zコード】

N4169A

### 【作者名】

緑茶

### 【あらすじ】

「よく普通の中学生の上原もえは、男に興味がなく恋をしたことがない。そんな時ある一人の男性の事が気になりはじめめる。なぜだかその人と自分の好きな数字が関係する。もえは、運命と感じるだが、その人とは、あまりにも世界が違った…。

## タイプ（前書き）

これは、純粋な恋をテーマに書きました。初めての小説です。皆さんの意見を参考にしたいので、ぜひ一度読んで感想を聞かせてもらえると、光栄です。

## タイプ

夏中旬、天気晴れ

キレイな青空に所々雲が、かかっている。

あたしはこの季節が好き。

あたしこと上原もえ15歳は、どこにでもいる普通の中学生だが、頭は悪い特技は、なし夢ややりたいことも特にない。性格は男っぽく恋をしたことがない。と言つより、男に興味がない。誰とも付き合つ事もなくのんびりと一人で生きてく事を望む。それが

あたしにとって幸せだと思うと、あの頃は当たり前のようと思つていた。

「最近あの人テレビ見てるよ」

「本当にかっこいいよね」

いつものが始まった。

学校に行くと、クラスの女子達が男性俳優やアーティストがビールで話している。

「やっぱりかっこいいよね。本物を生で見たい」

(生で見たつて同じ人間じゃん)

「・・・もえ聞いてる?」

「えつ」

「あーまた心の中で文句言つてゐるでしょ?」

最初にあたしに声かけた方は山中えり  
次に声かけた方は倉沢美加

二人ともあたしの友達だけど、いつもこんな話ばっかりでついていけない

「なー、一人ぐらいかつこいいなつて思う人いないの?本当に」

美加は右手をあたしの机に置いて、左手の人指し指であたしを指した。

「本当よ

美加に続いてえりが言つた。

「いないよ」

あたしは、顔色一つ変えず言つた。当たり前、本当の事を言つたからそれで動搖するわけがない。

「だつて興味ないし、かつこいい系嫌いだもん」

「そんなこと言つたつて、所詮この世界のほとんどみんなが、顔で

選ぶんだから、ねつ、えり」

「私・・・可愛くない、どうしようつ・・・」

「えりは、可愛いって」

（・・この世界の人が顔で決めるとしても、あたしはその残りの内面で選ぶ人を探すって言つても天と地が引っくり返つても付き合つ事はないだろうけど）

あたしは、机に顔を伏せた。その事に気付いたのか、美加が話かけてきた

「ねーもえの男性のタイプは?」

「いないつて」

あたしは机に伏せたまんま言つた。

「敢えていうならよー!お願い教えて」

美加はそう言いながらあたしの頭を両手で持ち上げ何度も横に大きく振つた。

美加の性格は、とても活発でお調子者。

そんな性格の美加があたしは好き。でも一つだけ迷惑な所がある。それは、気になる事があつたらどんな事をしてでも、その事を徹底的に調べる事。

そんな事で前、学校帰りに名古屋まで付き合わされた事がある。  
今のことだつてきつと帰つてから何度も電話がくるだらつ。

「わかつた言うから手離して」

「うん」

美加が手を離したら急に頭が重くなつた。前を見ると、天井と床が逆になり回り始めた。あたしはわけが分かんなくなり、そのまま勢いよく頭を机にぶつけた。一瞬記憶が飛んだ。

「・・・もえ・・・平氣?なわけないよね」

美加の声だけが聞こえた。

(何が起こつた・・?)

かなり勢いよくぶつけたのは、わかる。

クラス全員の視線があたしに向いてるのもわかつた。

こんなに恥ずかしいことは、今まで、無かつただろう。  
あたしは、しばらく顔を上げる事が出来なかつた。

## 悩み

あたしは、何も考えずただひたすら家に向かつて歩いていた。すると後ろから足音が聞こえた。

「もえー待つてよ」

美加が息をきらしながら走つてくる。その顔は、どこか笑っていた。

「せつあは、」めんね

顔は、笑つているが心から言つてるのは、分かつた。

「つづる

あたしも、笑いながら答えた。

「あのやーわつきの事なんだけど・・・」

美加は、やつと顔を下に向け、手をもじもじさせながら言つた。

「こんな事あつてから聞くのなんだけど・・・男のタイプ教えて」

寒気がした

「おかしごつて分かつてるんだけじゃー」

夏では、とても考えられない冷たい風があたし達の間を通り過ぎた

(恐い)

何度もその言葉が頭のなかをよぎった。

「もえ？ どうしたの」

美加が一瞬悪魔にさえ見えた。なにかが起つた。

「・・・美加」めん用事思い出した

あたしは、それだけ言つて走り出した。

(なに？ なんなの)

わけが分かんなかつた。

あたしは、家に着くなりベットにもぐり込んだ。

ふと、昔のことを思い出した。前にも一度こんな事があつた。

ちよつと一年前

その頃から男を避けていて、一度も男と遊んだ事が無かつたが、その日友達に合コンに誘われて、行く気は全くなかったが友達があまりに熱心に頼むから仕方なく行くことにした。

その日は、雨でしかも遠いいためかさをしながら自転車で行くことになつた。

目的地集合のため行きは一人。

本当に普通に走つただけなのに、急に自転車の前の車輪がパン

クし、その衝撃で前の電柱に直撃。

あたしは、そのまま倒れ今度は、後ろから来たトラックに水をかけられ服がびしょびしょに、

「メテイーかよ、と思うことが本当にあったのだ。  
その日は、結局合コンには行けず  
しかも次の日、熱で寝込んだ。

「・・・偶然だと信じたい」

今氣付いた15年間生きてきて今まで男のタイプをほとんど聞かれたことがない。

（それもある意味恐い）

あたしは、大きくため息をついた。  
そして数秒の沈黙のあと

「明日あたしも、好きな人のタイプはなしてみよ

（・・・なにかが変わるかもしれないし）

知らないうちにあたしは、眠りについていた。

クラスの女子達がいつも他の男の話をじてこる。いつもと違うのは、その話がもつと嫌に感じる事だ。

(ルの話やめて~)

「もえおはよ」

美加の声が聞こえた。

「もえ?」

「ねつおせよ」

(言わなきや昨日の事)

「美加、昨日の事だけ~・・・」

あたしは昨日の懸夢を思こだし口を止めてしまった。

「もつもん覚えてるよ~用事つて何だったの」

「・・・え?」

「用事あるから帰つたやつだじょん~用事つて何だったの?~」

「あー用事ね・・・」

(あれ?)

開いた口がふさがらないとは、」「うこうう事なのか。

「教えてよー」

まさか気になつてゐ事が変わつてゐなんて、誰が想像しただらうか。

(あんなに悩んだのは・・・)

あたしは、肩をおとしながら屋上に向かつた。

あたしは気分転換によく屋上に来ることが多い。空を見ると嫌な事すべて忘れられるから。

屋上の真ん中あたりであたしは、大の字になつて、寝転んだ。

(はあー)

息を吸い込みはきだした。

「静かでいいな、」「」が一番落ち着く

(わかつきの事も忘れよひぬひじひじよひもない)

下駄箱に行くとクラスの女子達が大口を開けて笑つてゐるのが見えた。

「いい曲だよね！」

(早く帰る)

あたしは、わざわざ靴を履き替えた。

「こ・このボーカルがこ・こ・こ・よね」

あたしは、おもわす女子達の方を見てしまった。

(こ・こ・こ・こ・確かアーティストだよね)

「曲もいこ・け・せ・い・ぱ・顔が・か・つ・こ・思・あ・せ・」

(や・わ・ぱ・顔・か)

あたしは、駆け足で外に出た。

「曲で選んでよーなんで顔なの?アーティストに悪こ

家に着いてもまだイライラがおさまらない。ついベットを殴りてしまつた。

「・・・いつか好きじゃないし別に」

テレビを付けベットにたおれこんだ。

「一生こののかなーあたし」

『抱かれたい男アーティスト編30～20位からです』

テレビから聞こえてきた。

「アーティストかあ」

あたしは、チャンネルを変えようと手を出した。

『28位MondayボーカルのATUSHI』

「あつMondayだ」

あたしが、見てたドラマの主題歌を歌つていたから知ってる。

『20位MondayギターのTAKASHI』

「へえー名前知らなかつた。・・・紙に一応名前書いとこー」

こんな事がきっかけで人生が180度変わってしまうなんて今のあたしには、ぜつたい想像出来なかつただろう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4169a/>

---

運命数字

2011年1月14日17時59分発行